

# 名古屋大学産婦人科専門研修プログラム

(2025年4月 専門研修開始用)

# 目次

1. 専門医の使命とプログラムの理念
2. プログラムの特徴
3. 専門知識/技能の習得計画
4. リサーチマインドの養成および学術活動に関する研修計画
5. コアコンピテンシーの研修計画
6. 地域医療に関する研修計画
7. 年次ごとの達成目標
8. プログラムの評価(知識、技能、態度に及ぶもの)
9. プログラム管理委員会の運営計画
10. 専門研修指導医の研修
11. 専攻医の労務管理
12. 専門研修プログラムの改善方法
13. 専攻医の採用と登録

# 1. 専門医の使命とプログラムの理念

## 産婦人科専門医とその使命

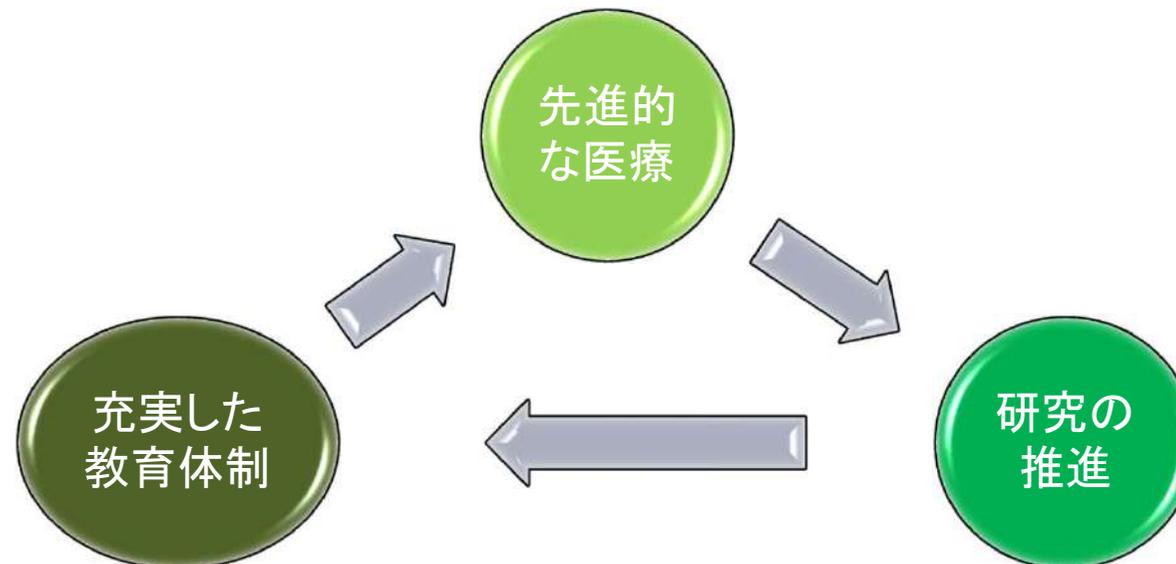
- 産婦人科専門医は産婦人科領域における広い知識、錬磨された技能と高い倫理性を備えた産婦人科医師です。
- 産婦人科専門医は常に最新の情報を学び、新しい技術を修得し、標準的な医療を安全に提供し、疾病の予防、早期発見、早期治療に努め、自らの診療能力をより高めることを通じて産婦人科医療全体の水準をも高めて、女性を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートすることを使命とします。
- また、将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち基礎研究、臨床研究を実際に行うことが求められます。

## プログラムの理念

- 産婦人科専門医制度は、患者に信頼され、標準的な医療を提供でき、プロフェッショナルとしての誇りを持ち、患者への責任を果たせる産婦人科専門医を育成して、国民の健康に資する事を目的としています。具体的に習得すべき技術や知識について、[到達目標](#)として示されています。
- 本プログラムに基づく専門研修を通して、基幹施設である名古屋大学医学部附属病院において標準治療や先進的な医療を経験し学ぶとともに、地域医療を担う連携病院での研修を経て、高度で先進的な医療や地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され、東海全域の周産期医療を支える人材となることを期待しています。

## 2. プログラムの特徴

- 名古屋大学産婦人科は、先進的な医療の提供・充実した教育体制の確保・高いリサーチマインドに基づく研究の推進を図るとともに、有数の関連病院と連携しながら地域医療を守りながら多数の産婦人科医師を育ててきました。
- 「名古屋大学産婦人科研修プログラム」は、この伝統を継承しつつ、2018年度より開始された新専門医制度に合わせて立てられたプログラムとなっており、以下の特徴を持ちます。
  - ✓ 高度医療から地域医療まで幅広く研修を行える研修施設群
  - ✓ サブスペシャルティ領域を全てカバーする豊富で質の高い指導医
  - ✓ OB会による、診療・教育・研究への強力なバックアップ
  - ✓ 質の高い臨床研究および基礎研究の指導
  - ✓ 個々人にあわせて、きめ細やかに研修コースを準備
  - ✓ 女性医師も継続して働けるように、労働環境を十分配慮



### 3. 専門知識/技能の習得計画

- 基幹施設である名古屋大学医学部附属病院産婦人科には専用のカンファレンス室に加えて原則として全ての専攻医にデスクを用意しています。さらに、学内インターネットにより国内外のほとんどの論文がフルテキストで入手可能です。自ら学ぶには最適な環境です。
- 臨床では、毎週・火・水・木・金が手術日となっており、婦人科腫瘍・周産期・生殖の各グループが幅広い手術を行っています。外来・入院管理ではチーム医療の実践に心がけつつ、最先端の医療を実施しています。
- 毎週、手術症例を中心にカンファレンスを行い、病態・診断・治療計画作成の理論を学びます。他科との合同カンファレンスとして、放射線科、新生児科等との合同カンファレンスを行っています。さらに各グループでは、症例検討のためのミーティングや研究ミーティングなどが毎週のように行われており、非常に活気があります。
- もちろん、日本産科婦人科学会などの学術集会に専攻医が積極的に参加し領域講習受講や発表を通じて、専門医として必要な総合的かつ最新の知識と技能の修得や、スライドの作り方、データの示し方について学べるようにしています。
- 連携施設においては、産婦人科医として遭遇することが多いCommonな疾患や病態について数多くの経験が可能な環境が整っており、基幹施設における研修との相乗効果を生み出せるよう努めています。

## 4. リサーチマインドの養成・学術活動に関する研修計画

- リサーチマインドは、診療技能の向上に必須のものです。診療を通して生じた疑問や困難を解決したり検討を重ねて次の診療に生かすためには、標準的な医療が何であるか、どのような根拠に基づき標準的とされているのか、その標準医療の限界は何なのかなどを知っておくことが必要です。
- 質の高い研究を行うためには、良い着眼点に加えて、正しいデータ解析が必要です。そして学会発表のためには、データの示し方、プレゼンの方法を習得する必要があります。さらに論文執筆にも一定のルールがあります。本プログラムにはそれを経験してきた指導医が数多く在籍し、適切な指導を受けることができます。
- 本プログラムでは、英語論文に触れることが最新の専門知識を取得するために必須であると考えており、論文は可能であれば英文での発表を目指します。基幹施設である名古屋大学医学部附属病院産婦人科、または、連携施設において、日本産科婦人科学会、愛知地方会、東海産科婦人科学会等の学会発表および論文執筆を目指し、さらに連携施設在籍中も積極的に学会発表および論文執筆を目指します。
- 本プログラムに基づく3年間の研修を経験することで、リサーチマインドを持った産婦人科専門医に成長する土壌を培います。個々人の目標やレベルに併せつつ研修を進めることで、最終的には一定水準を超える実力を備えた産婦人科医となれるよう、プログラムの改善に努めています。

## 5. コアコンピテンシーの研修計画

- 産婦人科専門医となるにあたり、産婦人科領域の専門的診療能力に加え医師として必要な基本的診療能力(コアコンピテンシー)を習得することも重要です。
- 医療倫理、医療安全、感染対策の講習会を各1単位(60分)ずつ受講することが修了要件に含まれています。
- 本プログラムにおいては、積極的な学会・研修会参加を通して、可能な限り早期にこれらの単位の取得を目指し、専門医に必要なコアコンピテンシー習得につなげています。
- さらに、麻酔科、集中治療部での約1か月間の研修を通して、呼吸、循環、麻酔管理などを体系的に習得します。

## 6. 地域医療に関する研修計画

- 本プログラムの研修施設群は、基幹施設の名古屋大学医学部附属病院産科婦人科が中心となり東海地方の産婦人科医療を支える連携施設によって構成されています。いずれも地域の中核的病院であり、症例数も豊富です。

基幹施設：名古屋大学医学部附属病院

連携施設：【名古屋市内】日本赤十字社愛知医療センター・名古屋第一病院・第二病院、大同病院、聖霊病院、中京病院、中部労災病院、名古屋記念病院、名古屋掖済会病院、名古屋医療センター、愛知県がんセンター、藤田医科大学ばんだね病院

【愛知県内】豊橋市民病院、岡崎市民病院、安城更生病院、トヨタ記念病院、刈谷豊田総合病院、豊田厚生病院、公立陶生病院、知多半島総合医療センター（旧半田市立半田病院）、春日井市民病院、小牧市民病院、公立西知多総合病院、知多半島りんくう病院（旧常滑市民病院）、あいち小児保健医療総合センター、碧南市民病院（2026年度～）、愛知医科大学付属病院（2026年度～）

【愛知県外】岐阜県立多治見病院、大垣市民病院、静岡済生会総合病院、クリニックママ

- これらの病院には長年にわたり、名古屋大学医学部産婦人科から産婦人科医師を派遣し、地域医療を高い水準で守ってきました。本プログラムの専攻医は、これらの病院のいずれかで少なくとも一度は研修を行い、外来診療、夜間当直、救急診療、病診連携、病病連携などを通じて地域医療を経験します。いずれの施設にも指導医が在籍し、研修体制は整っています。

# 7. 年次ごとの達成目標

## 専攻医研修1年目

- 内診、直腸診、経腔・腹部超音波検査、胎児心拍モニタリングを正しく行える。
- 上級医の指導のもとで正常分娩の取り扱い、通常の帝王切開、子宮内容除去術、子宮付属器摘出術ができる。婦人科の病理および画像を自分で評価できる。

## 専攻医研修2年目

- 妊婦健診および婦人科の一般外来ができる。正常および異常な妊娠・分娩経過を判別し、問題のある症例については上級医に確実に相談できる。
- 正常分娩を一人で取り扱える。
- 上級医の指導のもとで通常の帝王切開、腹腔鏡下手術、腹式単純子宮全摘術ができる。
- 上級医の指導のもとで患者・家族のICを取得できるようになる。

## 専攻医研修3年目

- 帝王切開の適応を一人で判断できる。
- 通常の帝王切開であれば同学年の専攻医と一緒にできる。上級医の指導のもとで前置胎盤症例など特殊な症例の帝王切開ができる。
- 上級医の指導のもとで癒着があるなどやや困難な症例であっても、腹式単純子宮全摘術ができる。悪性手術の手技を理解して助手ができる。一人で患者・家族に対するインフォームド・コンセントを取得できるようになる。

## 8. プログラムの評価

### 到達度評価

- 研修中に自己の成長を知り、研修の進め方を見直すためのものです。本プログラムでは、少なくとも12か月に1度は専攻医が研修目標の達成度および態度および技能について、Web上で日本産科婦人科学会が提供する産婦人科研修管理システムに記録し、指導医がチェックします。
- 態度についての評価は、自己評価に加えて、指導医による評価（指導医あるいは施設毎の責任者により聴取された看護師長などの他職種による評価を含む）がなされます。なおこれらの評価は、施設を異動する時にも行います。それらの内容は、プログラム管理委員会に報告され、専攻医の研修の進め方を決める上で重要な資料となります。

### 総括的評価

- 専門医認定申請年（3年目あるいはそれ以後）の3月末時点での研修記録および評価に基づき、研修修了を判定するためのものです（修了要件は整備基準項目53）。自己・指導医による評価に加えて、手術・手技については各施設の産婦人科の指導責任者が技能を確認します。他職種評価として看護師長などの医師以外のメディカルスタッフ1名以上から評価も受けるようにします。
- 専攻医は専門医認定申請年の4月末までに研修プログラム管理委員会に修了認定の申請を行います。研修プログラム管理委員会は5月末までに修了判定を行い、研修証明書を専攻医に送付します。そして専攻医は日本専門医機構に専門医認定試験受験の申請を行います。

## 9. プログラム管理委員会の運営計画

- 本プログラム管理委員会は、基幹施設の指導医と連携施設担当で構成されています。プログラム管理委員会は、毎年委員会会議を開催しながら、専攻医および研修プログラムの管理と研修プログラムの改善を行います。
  
- プログラム管理委員会での主な議題は以下の通りです。
  - ✓ 専攻医ごとの専門研修の進め方。到達度評価・総括的評価のチェック、修了判定
  - ✓ 翌年度の専門研修プログラム応募者の採否決定
  - ✓ 連携施設の前年度診療実績等に基づく、次年度の専攻医受け入れ数の決定
  - ✓ 専攻医指導施設の評価内容の公表および検討
  - ✓ 研修プログラムに対する評価やサイトビジットの結果に基づく研修プログラム改良に向けた検討

## 10. 専門研修指導医の研修

- 日本産科婦人科学会が主催する、あるいは日本産科婦人科学会の承認のもとで連合産科婦人科学会などが主催する産婦人科指導医講習会が行われます。そこでは、産婦人科医師教育のあり方について講習が行われます。指導医講習会の受講は、指導医認定や更新のために必須となっています。
- さらに、専攻医の教育は研修医の教育と共通するところが多く、本プログラムに携わる指導医のほとんどが、「医師の臨床研修に係る指導医講習会」を受講し、医師教育のあり方について学んで、医師臨床研修指導医の認定を受けています。

# 11. 専攻医の労務管理

- 本プログラムの研修施設群は、「産婦人科勤務医の勤務条件改善のための提言」(平成25年4月、日本産科婦人科学会)に従い、「勤務医の労務管理に関する分析・改善ツール」(日本医師会)等を用いて、専攻医の労働環境改善に努めるようにしています。
- 具体的には、勤務時間、休日、当直、給与などの勤務条件について、労働基準法を遵守しつつ、各施設の労使協定に従っています。さらに、専攻医の心身の健康維持への配慮、当直業務と夜間診療業務の区別とそれぞれに対応した適切な対価を支払うこと、バックアップ体制、適切な休養などについて、勤務開始の時点で説明を行っています。
- 総括的評価を行う際には、専攻医指導施設に対する評価として、労働時間、当直回数、給与など、労働条件についての評価を専攻医が行います。
- 近年、新たに産婦人科医になる医師は女性が6割以上を占めており、産婦人科の医療体制を維持するためには、女性医師が妊娠、出産をしながらも、仕事を継続できる体制作りが求められています。本プログラムでは、ワークライフバランスを重視し、個々人の家庭環境などを踏まえた働き方の尊重、育児休業後の時短勤務、当直免除など、誰もが無理なく希望通りに働ける体制作りを目指しています。

## 12. 専門研修プログラムの改善方法

- 総括的評価を行う際には、専攻医が指導医、施設、研修プログラムに対する評価も行います。また指導医も施設、研修プログラムに対する評価を行います。その内容は本プログラム管理委員会で公表され、研修プログラム改善に役立っています。必要な場合は、施設の実地調査および指導を行います。また評価に基づいて何をどのように改善したかを記録し、毎年日本産科婦人科学会中央専門医委員会に報告します。
- さらに、本研修プログラムは日本専門医機構からのサイトビジットを受け入れます。その評価を本プログラム管理委員会で報告し、プログラムの改良を行うよう努めます。
- 研修プログラム更新の際には、日本専門医機構によるサイトビジットによる評価の結果と本プログラムの改良の方策について、日本産科婦人科学会中央専門医委員会に報告します。
- 専攻医や指導医が専攻医指導施設や専門研修プログラムに大きな問題があると考えた場合、本プログラム管理委員会を介さずに、いつでも直接、下記の連絡先から日本産科婦人科学会中央専門医委員会に相談することができます。この内容には、パワーハラスメントなどの人権問題が含まれます。

### 問い合わせ先

104-0031 東京都中央区京橋3丁目6-18 東京建物京橋ビル 4階

TEL: 03-5524-6900

E-mailアドレス: nissanfu@jsog.or.jp

# 13. 研修の開始と修了について

## 研修開始

- 研修を開始した専攻医は履歴書・初期研修修了証の2点を、産婦人科研修管理システムにWeb上で登録します。
  
- 産婦人科専攻医研修を開始するための条件として、
  - ① 医師臨床研修（初期研修）修了後であること
  - ② 日本産科婦人科学会へ入会していること
  - ③ 専攻医研修管理システム使用料を入金していることの3点が必要です。
  
- 何らかの理由で手続きが遅れる場合は、本プログラムのプログラム統括責任者に相談してください。

## 修了要件

- [専門研修プログラム整備基準\(項目番号53\)](#)を参照してください。

## 本プログラムの問い合わせ先

466-8550 愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65  
名古屋大学大学院医学系研究科産婦人科学講座  
TEL:052-744-2261  
FAX:052-744-2268  
E-mail: ob-gy@med.nagoya-u.ac.jp